

所沢税務署管内納税貯蓄組合連合会 優秀賞

義務教育は税金で成り立っている

東金子中学校 三年 友田 彩良

私たちが「あたりまえ」だと思っている義務教育。日本では小学校一年生から、中学校三年生までを義務教育として、無償で教育を受けています。無償でといっても、お金がまったくかからないわけではありません。義務教育は国民が納めている「税金」で成り立っているのです。

では、今の私たちのクラスの授業態度で、良いのでしょうか。授業中寝ている人、自分勝手な話し（私語）をしている人、先生の話をお聞かず、塾の宿題をやっている人がいます。国は私たちの未来に期待して教育を受けさせてくださっています。なのにもかかわらず、このような態度で授業を受けるのは国からの思いを理解し、授業を受けさせていただいているとは思えません。国民が納めている税金で授業を受けさせてもらう価値がないと私は思います。無償だからではなく、国のお金で私たちはここに座って勉強できているのだからと思わなければいけないと思います。

次に義務教育を成り立たせている、税金がどのようなところから、どのくらいの量納められているのか説明していきます。まず、一ヶ月に小学生は約八十四万円、中学生は約九十六万円かかります。これらのお金は勉強のために使われているのではなく、学校のイス、机、黒板などの備品や教科書、電気や水道、校舎の維持管理費、職

員の人件費などに使われています。そのお金は一番私たちの身近である「消費税」「地方消費税」から「所得税」「住民税」「法人税」「酒税」「たばこ税」「たばこ特別税」「関税」「揮発油税」「自動車税」「自動車重量税」などたくさん税から集められています。また、輸入する物は輸入にかかったお金にプラスで税がかかります。また、輸入する物の分購入する人の負担が大きくなってしまっています。

このように義務教育にはたくさんの方がたくさんところで納めている税金が使われています。そして私たちの勉強だけでなく、他の人件費などもすべて税金で賄われているのです。他の国では高校までが義務教育になっていたり、あるいはまったく義務教育が受けられない国もあります。私たちが九年間あたり前のように受けさせていたでいる授業は決してあたり前ではなくむしろありがたく思っている人への感謝の気持ちを忘れずに、授業を受ける必要があると私は思いました。